

経済的自立と自主権を目指すアフリカ諸国の闘争

アフリカ・チュチェ思想研究委員会書記長
民主コンゴ・チュチェ思想研究全国協会会長
ロヘケレ・カロンダ・アンドレ

1

尊敬する金日成主席がチュチェ思想を創始し、金正日総書記がそれを国家生活のすべての分野に具現した結果、朝鮮民主主義人民共和国は平和と自主、諸国人民間の連帯を支持擁護する国家として、国際舞台に高く登場しています。そのようなことから、チュチェ思想の指導的原則は、すべての社会環境に適用できる普遍的原理になり、すべての人があらゆる無知と蒙昧、くびきから抜け出るようにしています。

数十年間も奴隷制度擁護と植民地化、新植民地主義の矛盾を経験しているアフリカは、始めて朝鮮民主主義人民共和国のこの新しい思想を知りました。

40 余年前から、一部のアフリカの進歩的人士は、チュチェ思想を学んで普及し、アフリカ諸国にチュチェ思想を具現するために精一杯努力しています。

アフリカ・チュチェ思想研究委員会は、理事と全国委員会を通じてより体系化されており、活動範囲が広がっています。

結局、より多くのアフリカ人民、特に青年が、次第に歴史の主体としての自分たちの役割を認識し、帝国主義諸国がやっきになって縛りつけようとする「対象」のくびきから逃れるために戦っています。

また、パトリス・エマリ・ルムンバとアミカル・カブラル、トマ・サンカラのような愛国的なアフリカ指導者が流した血は決して無駄ではありません。

それは自主性と自由、そして発展のためのかれらの闘争が、アフリカ人民は自分自身の主人になるべきであり、自主的に自分の幸福を選択すべきであるという意識を次第に持ち始めた青年の心の中に、世代を継いで芽生える種となっているからです。

アフリカのこの若い世代たちは、より多くの知識を学ぼうという意欲を持っていますが、いまだ残っている新植民地主義的構造システムの数多い障害に縛られて翼を広げていません。

また、より多くのアフリカの指導者たちが、勇気を持って、アフリカ人民の努力を弱化させる新植民地主義的行為を糾弾しています。

チャドでは、中国やロシアの協力とは対照されるフランス政府の常時的な新

植民地主義的行為と、ジハードテロ集団にたいする資料の欺瞞性を暴いたため、イドリス・デビ大統領が殺害されました。

国家活動で一連の透明性を示したにもかかわらず、中華人民共和国とトルコ、などとの協力を開いたため、アルファ・コンデ大統領が糾弾されました。

マリの現暫定大統領が、自国からジハード勢力を駆逐するためにはロシアの治安部隊に頼らなければならないということを悟った瞬間から、フランスとの葛藤に苛まれています。

これに先立って、フランスとイギリスの武力によって転覆されたリビア大統領ムアンマル・アル・カダフィは、一連の新植民地主義的拘束からアフリカ人民の解放を目的に大陸的な範囲で通信及びインフラにたいする大規模の行動を計画したため、卑劣且つ野獸的に殺害されました。

こういった実例は多くあります。アフリカの指導者たちの英雄的な行動と振舞いは、若いアフリカの世代間で反響を呼び起こしています。

これらすべては、真の政治的及び経済的自主性と、国の自主権を目指してたたく現在のアフリカ青年の闘争熱意を示してくれます。

フランス大統領マクロンによってフランスのモンペリエで最近開かれた、フランス・=アフリカ首脳会議がこれを示唆してくれました。

この首脳会談には、たった一人のアフリカ指導者も参加していませんが、各国からきたアフリカの青年代表団が参席しました。

明哲さと確信、勇気を持って会議に参加したアフリカの青年たちは、フランス政府に搾取的な植民地的行為をやめて、互いに利益になる協力と文化間の対話を進めるときになったという意味を表明しました。

これに先立って西アフリカフラン (CFA:アフリカ財政金融共同体) 地域諸国の青年は目覚しい活動でこれらの国の指導者に圧力を加えて、かれらの国家財政が西アフリカフラン地域から抜け出るようにし、人民の期待に沿ってフランスと協商をおこなうようにし、この協商は現在進行中です。

2

アフリカ人民の間で大きくなりつつある、自分が自分自身の主人であるという意識の形成発展は、アフリカ共同体に少なからず残っている古い文化的及び構造的システムによって阻害されています。

文化分野でアフリカの指導者たちは、依然としてアフリカ人民の精神状態に完全に合致する政策を打ち出していません。

現在実施されている教育政策は、アフリカ諸国の歴史や具体的現実にもまったく合致しておらず、かつて社会の根本価値としてみなされてきた連帯的なすべ

での活動が、利潤と金によって侵食されており、神聖なものが非神聖化されつつあります。

構造的側面から見ると民主主義という概念は、アフリカ社会で文明の価値として表面化されていません。

アフリカの民主主義を外国の強大国の概念で脚色するのではなく、アフリカ文化に即して具現しなければなりません。

わが国を支配する国家構造や憲法などは、他国と新植民地主義の影響を受けており、それゆえ機構が脆弱であるのです。

3

チュチェ思想研究者と指導者の団結した活動と、汎アフリカ主義のためのアフリカ青年の、より意味のある活動によって、一連の根本原則がすべての段階で具現されない限り、恒久的な汎アフリカ運動を進めることは難しいです。

金日成主席が創始し、金日成主席と金正日総書記が発展させたチュチェ思想は、朝鮮民主主義人民共和国で実践されている立派な政策の里程標となっています。

アフリカでこれらの政策を成功裏に実施するためには、次のような様々な必須の根本原則を堅持しなければなりません。

それは：

- ・人民の要求に一義的な注意を払うことです。

指導者の構想に人民が正しく従わなければ、いかなる政治的及び経済的闘争も終結することができません。

アフリカの指導者は、社会的公正さと正しい政治、新しい技術習得のための愛国的教育の奨励に全力を尽くさなければなりません。

また金日成主席と金正日総書記が、しばしば以民为天について述べていたように、青年問題に主たる関心を向けなければなりません。

以民为天はすべての面で、富強な社会主義強国の主体を強化するために金正恩総書記が掲げている理念でもあります。

少数の金持ちと多数の貧窮者間の格差が次第に大きくなっている、社会的財貨分割の不平等のため、現在大部分のアフリカ諸国で起こっているように指導者と人民の間の絆が断ち切られてはいけません。

すべての地域の発展のための政策が実施されなければなりません

・建設的な労働にすべての人的資源を動員させ、国家経済の発展を促進させなければなりません。

アフリカ諸国の経済が脆弱で外向的であるのは、発展に必要な通貨を基本的

に外部出資に頼っているからです。

これは誤った考えであり、アフリカ諸国の発展に必要な財政資源は、根本的にアフリカの国で生産されるべきです。

全国の中小企業の促進と、地方の発展に関する発起を支持する政府の施策となる措置は、全人民に有利な国家資源の生産と流通をもたらすようになるでしょう。

こういった政策は、科学技術研究を奨励、遠隔地の農民も立派な生活に必要な資源を持てるよう、その発展を絶えず促すことでしょう。

・アフリカの指導者たちは、真の自衛的国防力政策について悟らなければなりません。

他人の兵器を持って自衛することは難しいです。

アフリカは、自分の防衛に適した方途を模索すべきであり、アフリカ人民は指導者が邪魔をしないで活動しやすくしてくれれば、これにも挑戦するでしょう。民主コンゴ共和国のマイマイの自衛武力の経験は、アフリカ人民の能力を雄弁に見せるよい実例です。

1998-2000年代に、民主コンゴのマイマイの武力は、自分よりはるかによく武装された外国の正規軍を掃滅しました。不幸にもそれらのことが無駄になり、アフリカの指導者たちは外国で生産した兵器を輸入し、指揮官を強国で育成するのに競争の熱を上げています。

自衛武力が新植民地主義強国の手中に収められれば、政治と経済で自主性を堅持するというのが空しくなります。

・愛国主義を実際の行動ではなく口先で取り繕う少なからぬアフリカ指導者の傾向。

民族主義的演説が、日常生活で起こることと正反対であるため、人民大衆が騙されています。社会的不平等が増え、汚職、腐敗、あらゆる横領によって国家資金が蕩尽されているのです。

4

青年に対する教育を通じて、チュチュ思想の研究を力強く進めなければなりません。

基本は人民大衆に適した思想、技術的教育と彼らの生活条件の向上に注意を払うことです。

持たざる者に何かを与えるという、型にはまった政策は、各公民に自分の権利に対する特権を保障する政策に座を譲らなければなりません。

結果的に国の経済的自主性と自主権をめざす闘争で、アフリカ人民は革新的

な方法を持って自身の自主哲学，発展哲学について深く考えてみるべきです。

自由と発展を追求する道で深刻な足かせとなる、すべてを根こそぎにするためには、アフリカの具体的実情に即して、必ずチュチェ思想を身につけ、実践に具現するようにすべきです。

アフリカの青年は世界各国の人民や各民族と固く団結して、自主的で繁栄するアフリカを建設するための用意があります。

アフリカは発展のために挑戦するでしょう。